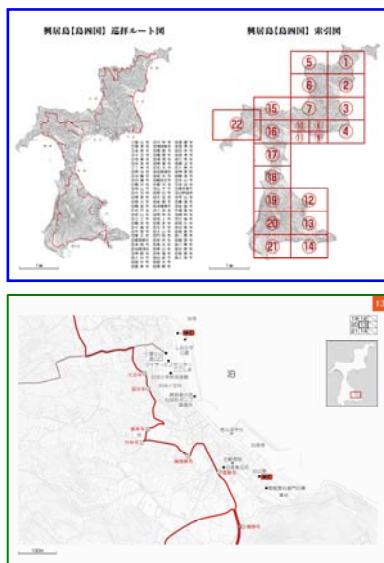


愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



興居島の散策に、きっとお役に立ちます『歩き遍路マップ』

「坂の上の雲フィールドミュージアム活動支援事業」の中で開催した「お先達養成講座」。その事業の一環で作成したのが興居島【島四国】『歩き遍路マップ』です。

四月二十・二十一日に開催されている興居島の【島四国】へは、毎年、島内外から多くの参拝者が訪れます。道々に色鮮やかなのぼりが立ち並び、道案内がなくても、それぞれの札所にたどり着くことができます。こののぼりは、それぞれのお地藏さんを管理する地元の方たちが、【島四国】へ向け、草刈りや清掃を行った後に取り付けているもので、地元の方たちにとっては、年中行事のひとつとなっています。

しかし、【島四国】以外の季節の札所の状況はというと、梅雨の雨で生い茂った夏草が身の丈ほどにもなり、とても足を踏み込めないような箇所も数多くあります。たとえ歩けたにしても、のぼりがなければ、なかなかお地藏さんを見つけることはできません。そこで、松山離島振興協会では、この興居島の他に誇るべき地域資源である【島四国】を、それ以外の時期にも気軽に訪れていたかどうか、またひとりでも歩いてお四国参りができるようにと、興居島各町連絡協議会、お寺さん、世話人さんのご協力を得て、今回、歩き遍路さんのためのマップづくりに取り組んだものです。

作成した『歩き遍路マップ』は、これまで協会が作成してきた『忽那諸島のイラストマップ』とキャラクターデザインを合わせ、赤黒印刷ながら、親しみやすい作りの小冊子となっています。

マップ本の体裁は、A5版五十二頁立てのホチキス止めで、地図部分は、およそ1/3300縮尺となっています。一部札所が密集する集落部頁については拡大した、およそ1/1600の縮尺とし、それぞれルートを表示しています。また、札所周辺の目印となる建物なども白地図上に表記しています。

マップの印刷部数は二千部。由良の観音寺と泊の弘正寺に設置させていただき、一部二〇〇円で販売させていただきます。

ぜひ、興居島【島四国】『歩き遍路マップ』をお求めいただき、お天気の良い日は、四季を通じ、ご家族、ご夫婦、お友達とお揃いで、歩いて【島四国めぐり】をお楽しみいただきたいと思えます。きっと、興居島のさらなる魅力に出会えることでしょう。

中島小学校・興居島小学校 開校式

島の新学校 はじまる

中島、興居島では、今年度から統合・新設された新たな小学校がそれぞれ開校し、地域のみなさんが見守るなか、島の子たちの真新しい校舎での新学期は始まっています。

4月8日、中島小学校では『船出式』と銘打った開校式が行われ、新たな校章をデザインした溝田明さんに金子校長先生から感謝状が贈呈されました。また5月10日には興居島小学校でも開校式が行われ、新しい校歌が披露されるなど、島の学校ははつらつとしたスタートを切っています。



協会のシンボルマークをデザインしてくれた溝田さんに感謝状が



船出式の後、入学式を挙行了した中島小学校

少子化、過疎化の影響で、授業や学習指導の形態等に苦慮していた島嶼部の小学校では、数年来にわたり、統合や存廃についての慎重な話し合いが行われてきました。地域総意の決断が求められるなか、中島、興居島の2島では、時を同じくして、統合・新設の小学校を建設する判断がなされ、平成二十一年度から、中島小学校、興居島小学校がそれぞれスタートしています。

島嶼部の小学校は、児童の減少から休校あるいは廃校となることが多く、島の住民のみなさんにとっては、この上ない寂しさを及ぼす出来事です。これまでも多くの小中学校が廃校に

なってきた歴史がありますが、だからこそ、統合してでも島の学校を守りたいという島民の強い思いがあるのでしよう。今回の両校の門出に際し、そんな思いの丈を垣間見た気がします。

三校の学校が統合した中島小学校は一〇四名の児童が、また釣島分校を抱える興居島小学校は六名の分校生を含め四十五名の児童が、勉強に、運動に、そして仲間づくりに勤しんでいます。今後におきましても、島の次代、将来、未来を担う子どもたちの健やかな育ちの場を島のみなさんの力で、築き、守り、育てていただきますようお願いいたします。



新しい校歌を歌う興居島の子どもたち

「学び舎を心に刻む…」 / 中島東・南小、天谷小、由良小、泊小 閉校式



中島に3校、興居島に2校あった小学校が統合され、この4月からは新生小学校がスタートしました。その陰で、多くの卒業生を輩出してきた中島の東小学校、南小学校、天谷小学校、興居島の由良小学校、泊小学校はその歴史に幕を閉じることとなりました。平成20年度をもって閉校する中島の3校、興居島の由良・泊の両校のそれぞれの閉校式には、中村市長、菊池市議会議長、金本教育委員長らが臨席し、地域のみなさんとともに別れを惜じました。



『松山島博覧会』開催へ向け

忽那諸島のイラストマップが勢揃い！



中島と鹿島で10島となったイラストマップ

平成二十年度の坂の上の雲フィールドミュージアム活動支援事業において作成の中島・鹿島のイラストマップが完成し、忽那諸島イラストマップは十島分となりました。

平成十八年度から、順次地域資源調査を行い、忽那九島のイラストマップづくりに取り組んでまいりましたが、松山島博覧会の開催が決定し、北条地区の鹿島が博覧会の実施範囲に含まれたことから、急遽、鹿島への地域資源調査に入り、なんとかイラストマップの完成へとこぎつけたものです。

中島のマップは、興居島のそれと同様に、A4版4頁の見開きの体裁で、宿泊やレンタサイクルの情報のほか、忽那家とのゆかりや義経伝説、トライアスロンの紹介などの情報を掲載しています。

一方、鹿島のマップ作成に際しては、北条地区のかざはや振興会の会長で、「若みどり」というちゃんこ料理店を営まれている遠藤泰夫さんの全面的なご協力をいただき、鹿島の自然や歴史、伝統行事、美しい情景など、豊かな魅力をお伝えする内容となっています。

また、これまで作ってきた八島のイラストマップについても今回見直しを行い、船賃の改定や、一部表現の見直しのほか、安居島の写真の入れ替えなど行っています。

このイラストマップは、一枚もので手軽なことから、各方面からたいへん好評をいただいていますので、それぞれの島を紹介する簡潔な媒体としてはもちろん、十島分をひと綴りにして、忽那諸島マップブックとしてもご利用いただけます。この忽那諸島イラストマップが、松山島博覧会へ向け、今後さまざまなシーンで活用されることを大いに期待しています。

あの『しまはく』がやってくる！／松山島博覧会実行委員会発足

『しまはく』の呼び名で常々みなさんへの協力をお願いしてきた松山島博覧会が、とうとう現実のものとして動き始めました。昨年末に実行委員会が設立され、委員長に田中政利松山離島振興協会会長が、副委員長には協会副会長の小池嘉彦さん、協会監事の金本房夫教育委員長のほか、中島総代会会長の池田弘さんが選任されました。また、実働部隊となる研究部会の会長は小池副委員長が兼任し、同副会長には協会副会長の古野真理子さん、釣島の山岡建夫さん、NPO法人「ふれ愛ランド中島」の中島和也さんがそれぞれ選ばれています。松山島博覧会は、平成21年度を試行期間とし、22年度の本番へ向けた準備が各島で進められますので、ご協力の程お願いします。



委員長の就任あいさつ

松山のおいしいもの大集合／第3回 まつやま農林水産まつり



今や2月の恒例行事となる

去る2月21・22日の両日、アイテムえひめで第3回となる『まつやま農林水産まつり』が開催され、松山市の農林水産ブランド認定品のほか、全市から生鮮食料品が集められた会場には、4万3000人の買い物客が押し寄せました。第1回が3万2千人、第2回が3万3千700超人であったことを考えると、今回は前回は6千500人以上も上回る来場者数であり、農林水産まつりは、まさに松山の2月の恒例行事として定着してきたようです。もちろん松山離島振興協会も、島の特産品PRに努めました。景気の冷え込みの割りにまずまずの売れ行きも、商品補充がままならないことから売り上げは例年並みでした。今後も引き続き、島の特産品販売には、多方面から力を注いでいくこととします。

【地域産業部】

第3回の「まつやま農林水産まつり」では、松山離島振興協会のみならず、多くの地域の特産品が所狭しと並び、松山の農林水産業の懐の深さを示しました。反面、何でも美味しいのが松山の欠点だという人もいます。これといった目玉商品がないとの指摘です。

協会としても、今後、まつやま農林水産物ブランド認定品を大いに宣伝する一方で、それら素材を使った料理の開発ができれば百人力ですので、そのあたりをしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 島原和暁

TEL.961-3293



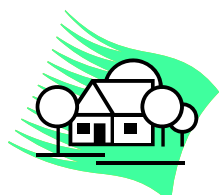
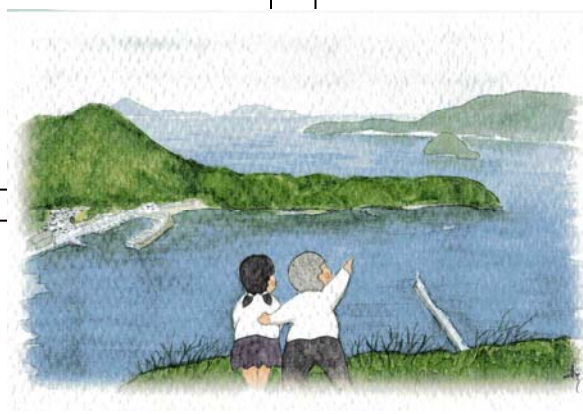
【観光振興部】

興居島のシンボルともいえる小富士山。その美しい裾野が古くから「伊予の小富士」と称えられ、正岡子規も歌に詠みました。その小富士山も近年では手入れをする人がなく登山道が封鎖された状態で、その現状が嘆かれていたのですが、今般、地元の方たちにより登山道が復活し、協会も竹刈りのお手伝いをした結果、再び山頂からのあの美しい眺めが望めるようになりました。毎年4月には恒例の【島四国】がありますので、併せて小富士山へもお運びいただきたいと思います。

《お問い合わせ・お申し込み》

副部長 石本 憲三

TEL.961-2033



【しまづくり部】

『しまはく』の提案が動き出し、実行委員会としての準備が始まりました。協会として、それら準備を側面的に応援することはもちろんですが、この博覧会が島に住む私たちの生活のリズムを崩したり、負担になったり、不快なものであってはなりません。住民が自然に受け入れられる、心地よい催しであるために、みなさんの意見を盛り込んだ企画である必要があります。実行委員会には、各島、各機関の代表が参加されていますので、お気軽にご意見をお寄せください。島の明るい未来のきっかけづくりともなる松山島博覧会をみなさんで応援いただきますようお願いいたします。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 内藤久司

TEL.998-0606

ホームページは随時更新！最新情報が盛り沢山

<http://iland-matsuyama.infoseek.ne.jp>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆